

指定管理者による公の施設の管理状況評価（令和2年度分）

施設	名称	栃木市大平児童館
	所在地	栃木市大平町蔵井2007-1
	施設内容	児童厚生施設
指定管理者	名称	学校法人しずわでら学園
	所在地	栃木市岩舟町静和1151-4
	主な業務内容	認定こども園しずわでら学園、認定こども園ふじおか幼稚園 子育て支援センターもりのカフェ の運営

(1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み

評価要素	①	施設の設置目的や特性に基づいた施設運営の基本方針が明文化され、職員が適切に理解しているか					
	②	施設予約や利用方法等について、市民の誰もが利用しやすい利便性と平等性確保の配慮がなされているか					
	③	アンケート調査等により、利用者等の意見を把握し、運営に反映させる取組みを行っているか					
	④	利用者等からの苦情や意見などに対し、適切な取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値		
	アンケート数			500件	365件		
	利用者意見反映数			2件	2件		
	施設案内揭示数			5か所	6か所		
	苦情発生件数			0件	0件		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	25	Ⅱ	0.8	20	Ⅱ	0.8	20
指定管理者コメント	<p>①児童福祉法第35条第3項に基づき、児童を健全に育成することを目標として施設運営方針を定めました。また、事務室に掲示し職員が常に意識できるよう努めました。</p> <p>②施設の案内を玄関や各部屋に表示、またホームページやSNS等でも積極的に案内することで、誰もが利用しやすいようにしました。</p> <p>③利用者満足度向上のため、夏休み中の利用者アンケート調査を111件、また、各種イベントごとの参加者アンケート調査を254件実施しました。コロナウイルス感染症の影響で事業の中止や縮小が多数発生したことにより、アンケート数が計画値を下回りましたが、調査内容により2件の要望を導入しました。</p> <p>④意見箱を設置、また苦情申出窓口を設置し利用者の意見を把握するよう努めました。苦情処理の基本的なマニュアルを作成し、苦情があった場合スムーズに対応できるよう努めました。</p>						
施設所管課コメント	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に理解し、職員の努力により利用者から感染者を出すことなく適正な運営が実施できたものと理解します。</p> <p>・初めての方でも利用しやすい雰囲気づくりに努めていることもあり、市内で最も利用者数が多い児童館を維持していることは評価できる。今後も利用者アンケートや意見箱、利用者の声を通じて得た意見を反映させ運営に当たっていただきたい。</p>						

(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み							
評価要素	①	施設の設置目的に基づいた事業計画通りに管理運営をしているか					
	②	広報活動等（広報紙、ケーブルTV、ホームページ、SNS等）による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか					
	③	開館時間の延長及び新規事業等による新規利用者の増加に向けた、効果的な取組みを行っているか					
	④	地域住民や関係団体等との連携や協働による事業等、利用者や地域住民の満足度を高める取組みを行っているか					
管理状況評価指標	指標名		計画値		実績値		
	利用者数		18,500人		9,738人		
	新規事業数		2事業		1事業		
	じどうかんだより発行部数		20,400部		20,400部		
	地域との協働事業数		5事業		8事業		
	協働事業参加者数		50人		21人		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8	16
指定管理者コメント	<p>①年間の事業計画に基づいて開館し事業を実施しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で4.5月に休業要請があり33日館休業、その後の事業は中止や条件付きでの開催となりました。休業中も職員は通常通り常駐し、電話等の対応を取れる体制をとりました。</p> <p>②毎月発行のじどうかんだよりに加え、ホームページ・広報誌・ケーブルテレビ・Twitter・LINEなどを積極的に利用し、幅広い周知を図りました。今年度は、急な休業や利用の制限等のお知らせが重要となり、ホームページやSNSが活躍した一年となりました。</p> <p>③児童館条例で定められている開館時間を延長することで、施設の利便性を高め利用者の拡大を図りました。新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた新規事業は中止となりましたが、予定していた事業の代替えとして「はっぴーつりくじ」を開催しました。新規事業数が少なかったが、その分既存の事業を2～4部制にするなどの対応をし、ひとりでも多くの方が利用できるよう考慮しました。</p> <p>④地域住民などの協力で毎年開催している「こどもフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症の影響でおまつりを縮小し、3密を避けるための対策としてボランティアの受入を最小限にしたため、参加者数が計画値に達しませんでした。</p>						
施設所管課コメント	<p>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により休館、感染症対策のための利用制限により、事業計画どおりの運営ができず、利用者数は半減しましたが、SNSを活用した広報活動、7、8月の開館時間の延長を行い利用者数の減少を抑える工夫を行っていることは評価できます。今後も、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しながら利用者の満足度を高める事業を実施することを希望します。</p>						

(3) 施設経費の削減の取組み							
評価要素	①	指定管理料、利用料金等の収支手続について、適切で透明性の高い管理をしているか					
	②	サービスの質を確保した経費削減の取組みを行っているか					
	③	清掃、警備、保守点検など、業務の一部委託等をする場合、複数業者からの見積合わせなど、経費削減等に考慮して適切に行っているか					
	④	施設、備品等の管理について、適切に維持管理し、省エネ、省資源、環境配慮物品の購入など環境への配慮を適切に行っているか					
管理状況評価指標	指標名		計画値		実績値		
	見積合わせ実施数		5件		5件		
	施設修繕数		7件		4件		
	備品等更新数		7件		7件		
	事業費削減額		71,055円		64,662円		
	事業費削減率		3%		2.7%		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	15	Ⅱ	0.8	12	Ⅲ	0.6	9
指定管理者コメント	<p>①指定管理業務にかかる収支について専用口座を設け、出納責任者を2名配置し確認体制を強化することにより、正確な管理を行いました。</p> <p>②リサイクル品の使用によるイベント消耗品の削減、光熱水費の効率的な利用に努め、イベントや施設の充実を図りました。</p> <p>③業務委託に関して、経費削減やサービス向上等考慮し、委託業者との信頼関係も築くよう努めました。</p> <p>④安心・安全に考慮し、危険個所の修繕や備品の交換等を行いました。修繕に関しては、外灯の漏電による修理やドアクローザーの交換等で大きな修繕は4件となりました。また、備品の更新は新型コロナウイルス感染症対策として、加湿器や空気除菌機の追加、防犯カメラの設置などがあり多めの更新数となりましたが、計画値に収まりました。</p>						
施設所管課コメント	<p>・施設経費の節減及び施設の維持管理について、適切に実施されているものと理解します。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、建物内の換気が必要なこともあり、光熱水費に影響がでているようですが、工夫を凝らし経費の節減をお願いしたい。</p>						

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み						
評価要素	① 施設の適正管理に必要な職員の配置及び管理運営体制が確保されているか					
	② 職員の望ましい勤務形態及び育成指導、研修等が十分に確保されているか					
	③ 職員の福利厚生は充実しているか					
	④ 各種税金や社会保険料等は適切に納められているか					
	⑤ 団体の財政状況等は健全であるか <別紙参照>					
管理状況評価指標	指標名			計画値	実績値	
	人員配置数			1日2名以上	1日2名以上	
	職員研修会開催回数			1回	1回	
	研修会参加回数			3回	4回	
	勤務時間数(1人あたり)			1日8時間以内	1日8時間以内	
	経常収支比率			100%	95%	
評価	配点	第1次評価(指定管理者評価)			第2次評価(施設所管課評価)	
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数
	20	Ⅱ	0.8	16	Ⅱ	0.8
指定管理者コメント	<p>①栃木市児童館条例並びに基本協定書に基づき、施設の運営に必要な職員配置を行いました。総括責任者として館長を1名配置、業務従事者すべての者が児童厚生員(保育士・幼稚園教諭等)の資格を有し、常に2名以上の人数配置をしました。</p> <p>②職員研修会を実施、また児童館連絡協議会主催の研修会にも進んで参加しました。今年度はコロナウイルス感染症の影響で中止となる研修会が多かったが、参加回数も計画値を上回ることができました。次年度以降も積極的に参加したいと思います。</p> <p>③④健康保険料・厚生年金保険は私立学校共済保険に加入、また各種税金も適切に納めました。</p> <p>⑤別紙にて</p>					
施設所管課コメント	<p>・適正な人員配置に基づき運営が実施されており、コロナ禍においても研修参加を通じ個々人の能力の向上を図っており児童館運営への熱意を感じます。今後も利用者の満足度を高める運営を目指し業務に取り組んでいただきたい。</p>					

(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み							
評価要素	①	① 日常の安全点検及び法定点検等の安全対策を行っているか					
	②	② 緊急時の危機管理体制等が確立されているか					
	③	③ 避難訓練や防災訓練を適切に行っているか					
	④	④ 具体的な個人情報保護対策を行っているか					
管理状況 指標評価指	指標名		計画値		実績値		
	安全定期点検実施回数		12回		12回		
	事故発生件数		0件		0件		
	訓練実施回数		12回		12回		
	訓練参加者数		70人		49人		
評価	配点	第1次評価（指定管理者評価）			第2次評価（施設所管課評価）		
		評価ランク	評価指数	評価点	評価ランク	評価指数	評価点
	20	I	1	20	III	0.6	12
指定管理者コメント	<p>①日々の安全点検に加え、月に1度定期点検を実施し、トラブルを未然に防ぐとともに、修繕を適期に実施しました。また、消防設備などの法定点検も適期実施しました。</p> <p>②安全管理マニュアルを各場面ごとに作成し、事務所に保管するとともに、職員に配布し、的確な対応ができるよう努めました。</p> <p>③総合訓練の他、消火器等の点検を毎月実施し、職員や利用者の防災意識を高めるものとなりました。コロナウイルス感染症の影響で、大人数での避難訓練を見送ったため、参加人数は計画値を下回りました。</p> <p>④個人情報保護マニュアルに基づき、適切に管理しました。</p>						
施設所管課コメント	<p>・施設管理については、適正に行われているものと理解します。</p> <p>・突然の地震等の災害に対応できるように訓練等を通じ、万全の体制を整えていただきたい。新型コロナウイルス感染症のような目に見えない危機への対応も必要となることから、情報収集等含め安全対策に万全な対応をお願いしたい。</p>						

評価結果	配点	第1次評価点 (指定管理者評価)	第2次評価点 (施設所管課評価)	第3次評価点 (選定委員会評価)
(1) 平等利用の確保とサービス向上の取組み	25	20	20	20.0
(2) 施設の効用を最大限に発揮する取組み	20	16	16	15.8
(3) 施設経費の削減の取組み	15	12	9	10.8
(4) 施設の管理を安定して行うための取組み	20	16	16	15.9
(5) 施設の安全対策、危機管理体制の取組み	20	20	12	13.8
評価点合計	100	84	73	76.3
総合評価		A	B	B

第3次評価（選定委員会評価）

選定委員会コメント

【平等利用の確保とサービス向上の取組み】

- ・幅広い年代の子供たちが施設を利用していることは、評価できる。

【施設の効用を最大限に発揮する取組み】

- ・児童館施設として、ユニークな天体観測室を活用した収益確保の方策を検討して欲しい。
- ・SNS等の効果的な活用し、施設の周知を図られたい。

【施設経費の削減の取組み】

- ・人件費の占める割合が高く経費削減は難しいと思うが、工夫して対応されたい。

【施設の安全対策、危機管理体制の取組み】

- ・天体観測室へ上る階段の頭上が狭いので、怪我防止対策を進められたい。
- ・子供たちが利用する施設のため、特に感染症対策や道路への飛び出し対策等を十分に行われたい。
- ・階段が多いため、避難訓練は重要と考える。

【その他】

- ・保育士の実習を引き受けられる児童館は少ないので、そういった「社会的な価値」をアピールできる評価指標の設定を検討されたい。

(4) 施設の管理を安定して行うための取組み

《 別紙 》

⑤ 団体の財政状況等は健全であるか

直近3カ年の情報を記入してください。

決算年次	平成29年度	平成30年度	令和1年度
資産総額	1,393,066,757	1,338,757,008	1,333,033,465
売上高	450,169,557	465,524,390	495,335,694
経常利益	7,381,018	△33,325,886	△23,619,628
当期利益	332,143,017	△35,116,086	△31,111,630
経常収支比率	101.66%	93.32%	95.46%

※ 経常収支比率について

本指標は、会社の資金繰りの実態を示す指標です。

この数値が100%未満であると銀行借入などをしなければ営業活動ができなくなるといわれているものであり、経常損失が生じていることを意味します。

決算年次	平成29年度	平成30年度	令和1年度
経常費用	443,338,836	498,643,668	520,317,196
経常収益	450,719,854	465,317,782	496,697,568
経常収支比率	101.66%	93.32%	95.46%

○経常収益（営業収益＋営業外収益）÷経常費用（営業費用＋営業外費用）×100で求めます。

指定管理者コメント

平成29年度においては通常より当期純利益額が高く、その要因は、ふじおか幼稚園新園舎建設に伴う施設設備補助金(特別収入)計上が挙げられます。

平成29年度から平成30年度にかけては、新卒教員給与のベースアップ等も影響し、人件費全般の底上げにより、人件費の前年対比増加は余儀なくされました。また、経常利益マイナス要因としては、新園舎建設に伴う減価償却費増加も挙げられます。

平成30年度から令和元年度においては、園児増加も寄与し、収入は増加傾向にあり、経費もやや削減できております。経常収支比率は100%を下回っておりますが、借入金返済額は減価償却費を下回っておりますのでキャッシュフローベース上は問題ないと思われま